

# HAPPY☆JAPAN PROJECT

平成 20 年度活動報告



HAPPY☆J-PROJECT!

## HAPPY JAPAN PROJECT とは？



HAPPY☆J-PROJECT!

あるミュージシャンとパラリンピックアスリートとの  
出会いから始まった 2008 年北京パラリンピックに向けての新プロジェクト。  
そこから広がる輪が当初の目的であったパラリンピック応援を越え、  
様々な活動に向けて始動した。この活動報告には HJP の一年の軌跡が描かれている。

「ジャンクルーズ」というポップスバンドで3枚目のアルバムのリリースを控えた VOCAL 池永憲彦が  
医者に喉の病気を宣告された。音楽活動の断念を余儀なくされ、バンド活動も休止した時期に過去にギタリスト役で出演  
した映画「あなたを忘れない」の花堂純次監督の紹介により、パラリンピックアスリート河合純一と佐藤真海と出会う。  
二人の人柄に魅かれ、親しくなっていく中でパラリンピックの現状を聞く事になり  
「なんでこんなにすごい競技があんまり注目されてないんだろう？」と疑問を感じた池永が  
花堂監督の協力を得て、パラリンピック啓蒙活動を目的とするイベント開催を決意。  
元々の広い人脈を生かし、次の日からパラリンピックイベントを開催する為に応援者を集める。  
次から次へと広がっていく輪の中で、その主旨に大いに賛同した知人である神社本庁渡邊剛氏の協力により、参議院議  
員荻原健司氏をコーディネーターとして迎える事になり、社会的イベントとしての基盤が徐々に出来上がる。  
しかし、1月13日に立ちあがった HJP としては3月30日までの道のりはあまりにもタイトで  
イベントを一か月前に控えた2月には開催までの作り込みが難しくなってきた様に思えたが、佐藤真海の上司であるサ  
ントリー坪松博之氏の協力や、渡邊氏の発案による参議院議員矢野哲朗氏への陳情により急激な展開を迎える。  
開催に向けての作り込みは坪松氏の協力によりまとめ上げられ、イベントは矢野哲朗氏の協力により、東京都と東京オリ  
ンピック・パラリンピック招致委員会の後援名義を取得、演出はライツの協力により出演アスリートと発起人池永の意志に  
沿った内容の深い演出を創る事が出来た。  
パラリンピックの大々的な応援は規制により不可能と言われていたが、イベントの必要性を感じて元々入っていた案件  
を調整し、出演頂いた荻原健司氏や、パラリンピアン活性化に向けてパラリンピアン協会事務局長として活動してきた  
河合純一、試合出場を変更してまで参加頂いた車椅子バスケの京谷和幸選手、北京出場決定前の不安定な精神状態の  
中、個人ではなく、パラリンピックアスリートとして身を投げ打って動き回った佐藤真海や、発起人池永を始めとする賛同  
者含む関係者全ての気持ちが一つとなり、  
不可能と言われたパラリンピックのイベントを大々的に開催する事に成功。  
スタートとなった 2008 年 3 月 30 日(日)に行われたトーク交流イベント「夢を翔ける～パラリンピックアスリートからあな  
たへ～」は多くの人と企業の賛同を受け、満員御礼、ボランティアスタッフ 30 人と大盛況の中終える事が出来た。  
翌日に TBS 朝ズバッで紹介され、世の中に HAPPY JAPAN PROJECT としての実績を残した。  
2008 年 12 月 9 日に東京都、東京オリンピック・パラリンピック招致委員会の主催の都庁で行われたパラリンピック報道写  
真展に HJP として協力し、2008 年 12 月 14 日に行われた箱根総会により、更なる社会的活動をすべく、NPO 法人化を  
目指す事が決定。  
現在トヨヨーセンサー株式会社代表取締役小堀光由氏や株式会社荏原商事代表取締役島田薫氏を始めとする多くの  
賛同者と共に、NPO 法人認可に向けて活動中。

**HAPPY JAPAN PROJECT 公式ホームページ**

<http://www.happy-j-project.com/>

## HAPPY☆JAPAN PROJECT 2008 年活動報告



HAPPY☆J-PROJECT!

- 2007年12月16日 河合純一主演「夢追いかけて」上映会（代々木・利代）  
H J P発足ならびにイベント開催に向けた プレイメントとして開催
- **2008年1月13日 HAPPY☆JAPAN PROJECT 発足会**（代々木・ルッコラ）  
パーティ形式で50人以上集まり、3月30日のイベントの発表の場とした。
- **2008年3月30日 パラリンピックトーク交流イベント**  
**「夢を翔ける～パラリンピックアスリートからあなたへ」**



北京イヤーで盛り上がる満員の会場で、この年最初の記念すべきイベントを終えることが出来た。  
2008年のすべてはこのイベントから始まった。

当日は参議院議員荻原健司氏にコーディネーターを務めて頂き、全盲の金メダルスイマーの河合純一さん、  
車椅子バスケット日本代表の京谷和幸さん、走り幅跳び日本代表の佐藤真海さんらによるトークが繰り広げられた。  
トーク終了後は、来場者に競技用車椅子を体験してもらったり、目隠しして飴の味当てゲームをしたり、体験  
用義足を付けてもらったりと、お客さん参加型のイベントを重視した。

「夢を翔ける～パラリンピックアスリートからあなたへ～」は東京都樋口課長にお墨付きを頂き、今後の活動  
における大きな実績となった。

**集客：333人、ボランティアスタッフ30人      メディア：TBS朝ズバッ！にて放映（3/31）**

### 後援

日本パラリンピック委員会、東京都、東京オリンピック招致委員会、  
株式会社 LoveRhythm

### 協賛

株式会社コニーシステム、サントリー株式会社、トーヨーセンサー株式会社、  
日本オラクル株式会社、株式会社E-Times Technologies、(株)大洋工芸、がんこ屋（有）

### 協力

カンパラプレス（写真）、株式会社ライツ（演出）、Sleeping-Forest（デザイン）

2008年4月12日(土)

## 「ゴールドリボンウォーキング2008」佐藤真海ゲストトーク出演

「ゴールドリボン」は小児がんに関するあらゆる支援の世界共通のシンボルマーク。

小児がん(白血病や脳腫瘍、骨肉腫など)は、大人のがんと比べて発症率が低いため治療の研究開発が進んでいない事や、若さから大人のがんより全身への回りがはやい事、治療のため長期間学校に行けない事や、後遺症として心身に障害を持ってしまうなど様々な問題がある。日本ではまだ認知度は低い為、ゴールドリボン推進運動が行われて、一人でも多くの人々の理解と支援を必要としている。HJPの活動ではないが、「未来は明るいんだよ」と話す佐藤真海を見て同じ小児がんという境遇から立ち直り、今を輝く彼女が言うからこそ伝わる言葉を聞いて彼女にしか出来ない大切な役割を感じたのである。

池永憲彦



気仙沼壮行会



2008年7月23日

## 佐藤真海気仙沼壮行会(佐藤真海地元の気仙沼での壮行会)

2008年8月20日

岩波ジュニア新書から「夢を跳ぶ～パラリンピックアスリートの挑戦～」

佐藤真海著 発売。

発売にあわせ 佐藤真海選手を応援する会主催

## 出版記念パーティ&佐藤真海選手壮行会 開催

(倶楽部PASONA表参道)

2008年8月31日 夢イベント第二弾

## ドリーム☆ファイター08～夢を奏でる芸術祭～

出演:池永憲彦、la brise、我武者羅応援団、KANAME、阿草康司  
名古屋からはハンディキャップ(ダウン症、自閉症)を乗り越えた  
異色のダンスユニット、mixjam。

キーボードのYuと、3歳より視覚に障害を持ち音楽の他にも

パラリンピック陸上競技も行っているバイオリンのRinのインストユニット、la brise。

神戸から単身で上京、不可能だと思われることへ挑戦し続ける鬼才のマジシャン、KANAME。

気合いと本気の応援で世界を熱くするをモットーに人々に元気を与える社会人応援団、我武者羅応援団。

急性リンパ白血病の闘病生活から復活し、広島から単身で上京した魂のシンガーソングライター阿草康司

魂を伝える異彩のアーティスト達が渋谷に終結し、それぞれが熱いパフォーマンスで観客に大きな感動を呼び起こした。「夢を翔ける」から引き継ぐ夢イベントは、芸術性が加わる事によってHJPの幅を広げた。

HJP発起人池永が手掛けたパラリンピックアスリートへの応援ソング「夢を翔ける」にmixjamがダンスで参加したコラボは、見る人の心を揺さぶった。

東京壮行会



## 2008年9月28日 mixjam DREAM FESTIVAL vol.3 Hold on Just love it…

ドリームファイター08で共演したmixjamの名古屋でのイベントに佐藤真海、池永憲彦がゲスト出演。

「夢中になれるものがある」ということがどれだけ人を大きくするか、「夢を持つこと」がどれだけ人を強くするかを生で実感もらう事をテーマに、mixjamのダンスに加えて、今回初めてパラリンピックアスリートによるトークショーも同時に開催された。そしてそのあとには

池永憲彦が、mixjamとの出会い、そして次々に繋がっていく「縁」と常に支えてくれる両親に感謝を込めて歌った「ありがとう」と「夢を翔ける」を披露。

車椅子バスケットでは京谷和幸さん、宮嶋さんの車椅子バスケットの実演は迫力があり、シュートが決まると驚きの歓声があがる。

佐藤真海は今回のイベントに福地さんの熱い気持ちに動かされ、運営側の意識でも積極的に取り組み、自身のトークでもパラリンピックアスリートとしての夢や可能性を話し、その内容の深みに会場中の人聞き入っていた。

夢を翔けるではmixjamとのコラボレーションに加えて佐藤真海もダンスで参加してさらなる盛り上がりを見せた。このイベントが決定した頃からサプライズで多忙なスケジュールの中時間を作り、振付を練習し、覚えた。チアをやっていた真海は当日mixjamと共に見事な踊りを披露しました。

1000人以上入る会場も満席、mixjamのダンスに会場中が感動し、イベントは大成功のまま終わった。

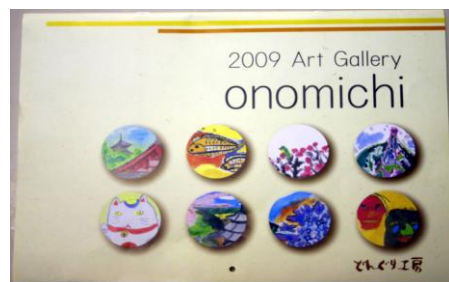


## 尾道施設どんぐり工房 2009年カレンダープロデュース

池永憲彦の地元尾道にある知的障害を抱えている人がいる施設のカレンダーをたまたま見つけた池永が協力を決意。尾道社会福祉法人の山根理事長に会いに行き、正式に依頼を受け、デザイナー伊藤将秀氏とともに2009年カレンダーをプロデュースする。

「良いものを創る」をモットーに一切の手を抜かずに作り上げたカレンダーは大反響を呼び、初の年内完売を成し遂げた。

※どんぐり工房のカレンダーは施設の利用者が絵画教室で書いた絵を使って毎年作っている。色彩やタッチなど独創的でユニークなものが多い。



2008年度と比べて全体的に暖色系を使い、温かさを出した。絵もテーマを「尾道」に絞り、尾道に関するクオリティの高い絵を選択。日付け線もデザインし、お洒落でポップ感を出した。お客さんを第一に考え、いいものを作れば結果みんなが喜び、売る方も買う方も作る方も利用方も笑顔になる。その笑顔が未来を創る。そんな連鎖を作ったかった。



2008年度カレンダー



2009年度年カレンダー

## JICA主催の渋谷早朝ゴミ拾い

JICAチームとHJP共催の「皿うどんの会」にて毎回話し合わせ、

「できることから始めよう」から始まった恒例渋谷早朝ゴミ拾い。

参加した人はゴミ拾いをする事によって普段の生活の中でも「意識」が変わる。

「細くでも長く続ける」との意識で毎回開催されている。



2008年11月28日

### 姫路大白書中学校での教育講演会（佐藤真海、池永憲彦）

600人近い生徒達の前で、佐藤真海講演、池永憲彦ミニライブ、佐藤真海実演（実際にスポーツ義足を付けて走る姿を披露）、質問コーナー、吹奏楽部とコラボ（夢を翔ける）と、盛り沢山な内容で生徒に夢の大切さを伝える。

教育講演会は先生方、生徒達にも好評で、

現在、新しい形の講演スタイルとして定着しつつある。



※2009年2月13日

広島県尾道市立日比崎中学校50周年記念イベント教育講演会予定

2008年12月1日～5日

### ～パラリンピック報道写真展～写真展「感じるパラリンピック」

北京イヤー最後のパラリンピックイベント！

東京都の公式ホームページにHJPの名前が協力として掲載。



展示している写真は、越智が2000年より撮りためたパラリンピックスポーツの写真の中からセレクトした、選りすぐりの約60点です。北京パラリンピック、アテネパラリンピック、シドニーパラリンピック、国際大会で撮影した写真を展示しております。

東京では、来年9月にアジアユースパラゲームズが開催され、さらに2016年オリンピック・パラリンピックの招致を目指しています。私は人間の未来への可能性を開く東京2009アジアユースパラゲームズ、東京オリンピック・パラリンピックを心から応援しています。今回の写真展開催にあたっては、数多くの方々に御尽力をいただきました。この場をかりて厚く御礼を申し上げます。

カンパプレス写真家 越智貴雄

## パラリンピック報道写真展

### 写真展「感じるパラリンピック」開催のご案内

平成 20 年 11 月 27 日

(特非) 東京オリンピック・パラリンピック招致委員会、東京オリンピック・パラリンピック招致本部

2016 年のオリンピック・パラリンピック競技大会の招致を目指す「東京オリンピック・パラリンピック招致委員会」は、12 月 1 日（月）～12 月 5 日（金）まで、東京都庁第一本庁舎 1 階 中央アートワークにおいて、パラリンピック報道写真展「感じるパラリンピック」の写真展を開催いたします。

写真家の越智貴雄氏が 2000 年シドニーパラリンピック大会から撮り始めた約 30 万枚の写真の中から、今回は選りすぐりの 60 点を展示いたします。パラリンピックスポーツに賭けるアスリートの情熱、息吹、そして人間の素晴らしい可能性を力強く訴えてくる写真の数々は見る者の心を捉えてやみません。東京都がオリンピックと同時に招致を目指すパラリンピックとは何か。是非本写真展にご来場いただき、パラリンピックを「感じて」くださいますようご案内申し上げます。

名称：パラリンピック報道写真展「感じるパラリンピック」

日程：12 月 1 日（月）～5 日（金） 8 時 00 分～18 時 45 分（都庁開庁時間内）

入場料：無料

場所：東京都庁第一本庁舎 1 階 中央アートワーク 東京都新宿区西新宿 2 丁目 8-1

主催：東京都、特定非営利活動法人 東京オリンピック・パラリンピック招致委員会

協力：日本パラリンピアンズ協会、HAPPY JAPAN PROJECT 実行委員会

写真提供：KamPara Press（写真家 越智貴雄氏）



佐藤真海選手 北京パラリンピック大会



ゴール後の選手同士の抱擁 北京パラリンピック大会

#### 【写真家 プロフィール】

越智貴雄（おち たかお）

大阪生まれ。大阪芸術大学芸術学部写真学科を卒業後、フリーランスフォトグラファーとして活動。2004 年よりパラリンピックスポーツ専門ウェブサイト「カンパラプレス」

（www.kanpara.com）を主宰。写真家のライフワークとして国内外のパラリンピックスポーツの撮影取材を行っている。

問い合わせ先

(特非)東京オリンピック・パラリンピック招致委員会企画・広報部門

電話 03-5320-2542

2008年12月12日

## 『2016東京オリンピック・パラリンピック招致サポーター大集合!』

代々木第一体育館にて盛大に行われた招致イベントに佐藤真海が出演。

会場には1万1,000人のお客さんが集まり、佐藤真海はスポーツ義足を付けて実演を披露し、観客の心を掴んだ。

東京オリンピック・パラリンピック招致委員会ホームページより

12月12日(金)に東京オリンピック・パラリンピック招致委員会は、国立代々木第一体育館で「東京オリンピック・パラリンピック招致サポーター大集合!」を開催し、会場に駆けつけたゲストの皆さんと1万1,000人のサポーターが一丸となってオリンピック・パラリンピック招致へ向けて団結しました。



2008年12月10日

## 国立がんセンター訪問 (佐藤真海、池永憲彦)

某テレビ局の取材で佐藤が以前入院していた国立がんセンターへ現在小児がんと闘っている子供たちに会いに行きたい旨をディレクターに伝えたことから訪問が決定した。

佐藤真海の希望で

クリスマスと言うことで池永がギターを持って参加。

全くの偶然でその院内学級では意識高揚の試みとして、

中高生に楽器を与え、バンド活動を応援するシステムを導入していた。

↓

後日、HJPから一人三千円ずつ集め、院内学級にアコースティックギターを寄贈。

2009年以降、ミニギター教室を決定

(池永所属のバンド、ジャンクルーズのベースのマッキーも協力承諾)





## 2008年12月24日 クリスマス特別企画「一人一人がサンタクロース」

池永憲彦ワンマンライブのお客様に呼びかけて集めた善意のプレゼントを、その翌日施設に届けた。

ライブに参加出来なかった人からも多くのプレゼントが寄せられ、届けたプレゼントは約70個にのぼった。

あまり差が出ないように、プレゼントは一人千円以内にして頂いたが、一人一人の気持ちのこもったプレゼントが自分の知らない子供達に愛情を届けた。千円はいわば、我々が一回の食事を使うお金だ。

決して懐に響かない程度のお金も使い方によっては人を幸せにすることが出来る。

以前に私はパラリンピック活動を始めた時に「お金のない人はボランティアをやるべきではない」と言われた事がある。

私はそうは思わない。お金がない人はお金がないなりに、体と頭がある。気持ちがあればなんでもできる。そしてボランティアという言葉は上から目線な感じがするので私は基本好きではない。ボランティア活動をする事によって得るものは大きいし、得た時点でそれはボランティアではない。ちゃんと相互利益が成り立っている。それを理解した上で初めて使う言葉だと思う。決していいことをしてるわけでもなんでもない。出来ることを無理にない範囲でし、人に喜ばれる人生を歩める事自体が価値のある事だと思う。そしてやるからには徹底的に。「ありがた迷惑」にならないよう、相手の立場や環境を考えたうえで最善の策を取ることが思いやりであり、良い関係なのだと私は思う。

今回の「一人一人がサンタクロース」企画は、規模は小さいが、今後大きなイベントになる可能性が十分にあると思う。

池永憲彦



2008年12月25日

## <オリンピック・パラリンピアンによるクリスマス施設訪問>

オリンピックのバレーボールの日本代表キャプテン吉原知子さん(バレーボール)と佐藤真海、池永憲彦で訪問。

想像と違う子供達の反応に三人共この訪問の意義を感じる。

この企画も招致委員会のメンバーと共に考えたものであり、終わった後に招致委員会メンバーに

「お金をかけて大きなイベントをするよりもやり甲斐のある企画だった」と言う言葉を頂いた。

招致委員会プログラムより

1. 目的 子供たちにスポーツの素晴らしさを伝え、招致活動を少しでも理解してもらえよう  
オリンピックとパラリンピアンとともに福祉施設を訪問し、交流を深める。

2. 場所 ①七生福祉園 (3歳から70歳代の知的障害者施設 生徒数約330名)  
② 児童自立支援施設(生徒数約100名)掲載禁止なので名前は伏せます。

プログラム

1. 吉原さん 紹介+話+実技
2. 佐藤さん 紹介VTR(3分)+話+実技
3. 池永さん 紹介+ライブ
4. クリスマスプレゼント贈
5. 施設側から御礼の言葉

## 東京福祉局通信

### ☆ オリンピアン・パラリンピアンによるクリスマス施設訪問がありました。

12月25日、七生福祉園にバレーボール元オリンピック代表の吉原知子さん、走り幅跳び北京パラリンピック第6位の佐藤真海さん、ミュージシャンの池永憲彦さんによるクリスマス施設訪問がありました。

今回の訪問は、東京オリンピック・パラリンピック招致委員会による2016年東京オリンピック・パラリンピック招致活動の一環として行われたものです。

体育館には、幼児、小中学生が約100名集まり、吉原さん、佐藤さんが、ビデオ映像とともにそれぞれ紹介された後、佐藤さんが競技用の義足で走って見せたり、吉原さんが打ったバレーボールを子どもたちがレシーブをするなど、和気あいあいの中、子どもたちとの交流が行われました。



吉原さん（左）と佐藤さん



歌を披露する池永さん

後半は、池永さんによる歌が披露され、最後は「きよしこの夜」をみんなで歌いました。

最後に、今回の訪問に対して、当園を代表して高等部の松田さんがお礼の言葉を述べた後、プレゼント交換を行いました。当園へのプレゼントとしてサッカーボールやクッキーなどたくさん頂き、子どもたちも大喜びでした。



【(社福) 社会福祉事業団 七生福祉園】

### ☆ ほっとファミリーで暮らす子どもへの理解促進のために

～中学校の道徳講座に児童相談所が参加しました。～

12月17日、北児童相談所では、北区立赤羽中学校（山口勉校長）と合同で、同校の道徳授業の一環として「思いやりの大切さ」をキーワードとした、ほっとファミリー（養育家庭の愛称）の制度理解を促す講座を実施しました。教育機関と児童相談所が合同でこのような取組を行うのは、初めてのことです。

ほっとファミリーとなった里親は里子を育てていく中で、様々な楽しいことや苦しいことに出会いますが、それは里子にとっても同様です。特に、学校生活を通じて、これまで隠していた事実(里子であること等)がふとしたことからみんなに知られてしまうことがあります。このとき、制度を知らないことからくる誤解や偏見を受けてつらい気持ちになる里子も少なくありません。今回の企画では、中学生にほっとファミリー制度への理解を深めるとともに、クラスの友達としてみんな思いやりを持っていくことの大切さを学んでもらうことが目的でした。



【北児童相談所】

当日は、奥田晃久所長と地域支援担当児童福祉司が、ビデオも活用しながら、約1時間、授業を行いました。中学生にはちょっと難しいテーマかな？と、心配していましたが、「里親制度のことをはじめて知りました。生まれや育ちは違って、これからも仲良く接していこうと思います」と感想文に書いてくる生徒もいました。

こうした地道な企画を重ね、生徒の制度理解が少しでもすすみ、都内のほっとファミリーが安心して子育てできる環境づくりが進んでいくことを期待しています。

# 夢を跳ぶ

パラリンピック・アスリートの挑戦

佐藤真海 著

(北京パラリンピック・走り幅跳び日本代表)



**2008年8月20日発売!**

岩波書店刊 定価 **777円**

骨肉腫で右足膝下を失った著者が、北京パラリンピック出場をめざす!

突然の告知の衝撃、苦しい闘病生活、競技者としての苦悩……。

さまざまな困難を乗り越え、新たに挑戦を続ける若き女性アスリートの涙と夢と希望の手記。

■体裁＝新書判・208頁

■ISBN978-4-00-500604-5 C0239

【著者プロフィール】

佐藤真海（さとう・まみ）

北京パラリンピック・走り幅跳び日本代表。

1982年宮城県生まれ。早稲田大学卒業。

在学中に骨肉腫を発症し、義足の生活に。その後、本格的に陸上競技をはじめ、アテネパラリンピック、北京パラリンピック出場。

現在、サントリー株式会社勤務。

【ご注文は下記の要領をお願いします】

●お近くの小売り書店にお申し込みください。

●ご自宅配送の場合は下記に直接お申し込みください。

岩波書店販売部〈ブックオーダー〉係（送料はお客様負担となります）。

Tel **049-287-5721** (9時～17時・土日祝祭日休業)

Fax **049-287-5742** (24時間受付)

岩波書店ホームページは <http://www.iwanami.co.jp/>